

## がん検診を受ける前に知っていただきたいこと

- ◆がん検診の目的は、自覚症状のない段階で(症状が出る前に)がんを早期発見し適切な治療につなげ、がんによる死亡を減少させることです。 **自覚症状がある方は、がん検診ではなく、医療機関を受診してください。**
- ◆胃がん・肺がん・大腸がんは、日本のがん死亡の上位に、乳がんは女性のがん死亡の上位に位置しています。また、子宮頸がんは女性のがんの中で比較的多く、近年増加傾向にあります。
- ◆肺がんは喫煙との関連が強く、肺がん死亡のうち男性で68%、女性で18%は喫煙が原因だと考えられていますので、**禁煙をお勧めします。**
- ◆がん検診には、メリット・デメリットがありますが、症状のない健康な人が対象であるため、デメリットよりもメリットが上回る必要があります。  
**国が推奨するがん検診は、「肺がん検診」「胃がん検診」「大腸がん検診」「子宮頸がん検診」「乳がん検診」の5つで、これらのがん検診は、メリットがデメリットを上回っています。**

### がん検診のメリット

- 最大の利益は、早期のがんを見つけ、早めに治療を行うことで、がんによる死亡率を低下させることです。
- がん以外の病気も見つけることができ、治療に結びつけられます。
- 早期発見により、治ることが多く、また医療費が安くすみます。
- がん検診の結果、「異常なし」と判定されれば次のがん検診まで安心して生活することができます。

### がん検診のデメリット

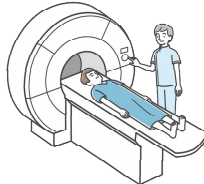
- がん検診でがんが100%見つかるわけではありません。(偽陰性)
- がんがなくても検診の結果「陽性」となる場合があります。(偽陽性)
- 結果的に不必要な治療(過剰診断)や検査を招く可能性があります。
- 検査に伴う偶発症(事故、副作用等)の問題があります。
- 受診者の精密検査が必要なことにより、不安を感じるなど心理的影響があります

- ◆がん検診は「異常なし(精密検査不要)」又は「要精密検査」のいずれかで判定されます。  
**「要精密検査」と判定された場合は、医療機関を受診し精密検査を受けることが必要です。**

#### 肺の精密検査

胸部CT検査で行います。

※検診と同じ検査は、精密検査となりません。



→胸部CT検査：CTスキャナーと呼ばれる検査装置の寝台に横になり、胸部の엑스線写真を撮影します。

#### 胃の精密検査

胃内視鏡検査を行います。必要に応じて、細胞組織をとり、がんかどうか調べる生検を行います。

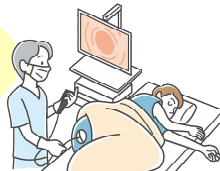


→胃内視鏡検査：胃の中を内視鏡で直接観察する検査です。麻酔や胃の動きを抑える注射をして、内視鏡を口や鼻から挿入します。

#### 大腸の精密検査

第一選択は全大腸内視鏡検査です。場合によって、S状結腸内視鏡検査と注腸엑스線検査の併用で行うことがあります。

※便潜血検査の再検は不適切です。



→全大腸内視鏡検査：大腸すべてを内視鏡で観察する方法です。事前に下剤を服用し、肛門から内視鏡を挿入し検査します。

→注腸엑스線検査：事前に下剤を服用し、肛門からチューブを挿入してバリウムと空気を注入し、大腸の엑스線写真を撮影します。

#### 乳房の精密検査

マンモグラフィの追加撮影、乳房超音波検査、MRI、CT、穿刺吸引細胞診や針生検等を行います。

- マンモグラフィ：詳しく観察するため、多方向から엑스線撮影をします。
- 乳房超音波検査：超音波により詳しく観察します。
- MRI：寝台に横になり、強力な磁石でできた筒の中で、磁気の力を利用して撮影する検査です。
- 針生検：しこりなど疑わしい病変が見つかった場合、細い注射針を刺して中の細胞や組織を採取して調べます。

#### 子宮の精密検査

コルポスコープ下の組織診や細胞診、HPV検査などを組み合わせたものを実施します。

- コルポスコープ：子宮頸部の粘膜表面を拡大し、細かい部分を観察できる医療器械です。観察と同時に粘膜の組織を採取して検査します。
- 組織診：疑わしい部分から組織を採り、標本をつくって顕微鏡で診断します。

※医療機関で受診した精密検査結果は、検診機関と三沢市で共有いたします。精密検査結果は、個人の同意がなくても市や検診機関に対して提供できる個人情報保護法の例外事項として認められています。